

第6回報告

「反対同盟の解散・再建から水戸地裁 判決までの百里のたたかい」

－1964年9月～1977年2月17日－

2月16日(木)に百里公民館で、6回目の「百里を語る会」が行われ、10人が参加しました。この日は4月上旬並みの暖かい日で、初参加者もあり団子や干し芋を食べながらの和やかな学習会になりました。

今回のメインテーマは、「反対同盟解散後の百里のたたかい」です。講師の伊達郷右衛門氏が戦後日本の変化と世界の変化をみながら、体験も交えて百里のたたかいを詳しく語ってくれました。この間の百里のたたかいを伊達氏は7項目に整理しています。

① 1964年9月：信戸委員長、土地を売り渡す。反対同盟解散

信戸委員長を支えきれなかった基地反対勢力の問題と捉える必要があります。

② 反対同盟の再建(1964年) 共産党勢力によって反対同盟が再建されます。

社会党・県労連は法廷闘争に重点を置くべきという方針でした。

③ 百里基地懇談会結成(1965年5月) 百里弁護団・自由法曹団・日本平和委員会・百里基地反対期成同盟・小川町基地反対同志会・県平和委員会で結成し、「一坪運動」を推進しました。

④ 百里基地反対連絡会議結成(1975年、3年後に現在の百里連協へ)

1966年から始まった「初午まつり」には社会党・県労連も参加。

⑤ 水戸地裁での裁判闘争 「自衛隊は憲法違反」を争点にして、源田実(空幕長)等の証人尋問を実現しました。

⑥ 水戸地裁「自衛力合憲」の判決下す 1977年2月 自衛隊の憲法判断は統治行為論で避けました。

⑦ 統一支援組織「百里基地反対連絡協議会」結成(1978年9月)

社会党と共産党が加盟した基地反対闘争の統一支援組織は、百里以外にはありません。そして最高裁判決後も現在まで続く基地反対闘争も沖縄以外では百里だけです。